

第201回 (21/Ⅱ期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

群馬銀行リスク統括部係長 三田正広
(前群馬経済研究所研究員)

◆調査概要

～業況判断DIは、新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞により、
2期連続のマイナスとなる～

- 2021年4～6月期の県内企業の業況判断DIは△9.1と、新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞により、2期連続のマイナスとなった。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが2期連続で「減少」超、採算DIも大幅な「悪化」超となり、設備投資DIでも「減少」超が続いた。また、原材料（仕入）価格DIが4期連続の「上昇」超、人員判断DIは4期続けて「不足」超となった。
- 業種別に業況判断DIをみると、製造業が0.0、非製造業が△16.0となり、8業種で「悪化」超（14頁）。製造業では、半導体不足による完成車メーカーの減産があった輸送機器など4業種が「悪化」超であったが、全体としては横ばいとなった。非製造業では、外出自粛の影響を大きく受けた小売業や、旅館・ホテルなどを中心としたサービス業で大幅な「減少」超となり、全4業種で「悪化」超、全体としても「悪化」超が続いた。
- 経営上の問題点では、引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を上回り最多となった（19頁）。
- 2021年7～9月期の業況判断DIは△3.0と、「悪化」超が続く見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
19・1～3	△ 7.6	△11.4	1.4	25.2	△11.6	△ 1.5	△ 3.2	△ 8.7	△40.4
4～6	△ 1.4	△ 4.4	3.1	23.4	△ 6.9	△ 4.5	2.3	△14.3	△34.0
7～9	△ 0.7	△ 0.9	0.0	14.6	△ 3.7	△ 1.6	△ 0.3	△10.1	△39.7
10～12	△ 6.6	△ 8.1	1.2	18.0	△ 9.7	△ 0.5	△ 0.3	△13.5	△36.5
20・1～3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
4～6	△54.8	△57.5	△13.2	△ 2.8	△51.2	△24.3	△11.7	△18.7	2.6
7～9	△15.4	△15.1	△ 4.6	8.0	△18.8	△13.4	0.6	△ 9.2	△11.3
10～12	3.1	2.5	△ 2.1	10.9	△ 5.5	△ 7.1	1.8	△ 5.5	△17.6
21・1～3	△19.0	△21.9	△ 3.7	21.5	△20.5	△10.7	△ 1.5	△10.2	△17.1
4～6	△ 9.1	△12.1	2.4	32.1	△18.0	△ 4.8	2.3	△ 6.9	△17.1
(前 期 比)	(9.9)	(9.8)	(6.1)	(10.6)	(2.5)	(5.9)	(3.8)	(3.3)	(0.0)
(前回予測比)	(△ 2.4)	(△ 4.6)	(6.4)	(14.6)	(△ 6.1)	(5.2)	(6.0)	(△ 2.9)	(0.4)
21・7～9見通し	△ 3.0	△ 2.4	2.6	22.6	△ 7.0	△ 5.0	△ 0.2	△ 2.2	△19.3
(前 期 比)	(6.1)	(9.7)	(0.2)	(△ 9.5)	(11.0)	(△ 0.2)	(△ 2.5)	(4.7)	(△ 2.2)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1039社

回答社数515社（回答率49.6%）うち製造業222社 非製造業293社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2021年5月上旬～6月上旬

5. 調査対象期間

2021年4～6月期実績、2021年7～9月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	222	43.1	214	92	96	34
食 料 品	29	5.6	29	15	8	6
織 維	13	2.5	13	3	9	1
木 材 木 製 品	10	1.9	10	4	3	3
窯 業 土 石	7	1.4	7	2	3	2
電 気 機 器	14	2.7	13	5	5	4
輸 送 機 器	30	5.8	29	13	16	1
金 属 製 品	41	8.0	40	15	23	3
一 般 機 械	19	3.7	18	11	6	2
そ の 他	59	11.5	55	24	23	12
非 製 造 業	293	56.9	279	164	71	58
卸 売 業	59	11.5	56	42	13	4
小 売 業	43	8.3	38	31	7	5
建 設 業	82	15.9	79	42	18	22
サ ー ビ ス 業	109	21.2	106	49	33	27
合 計	515	100.0	493	256	167	92

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

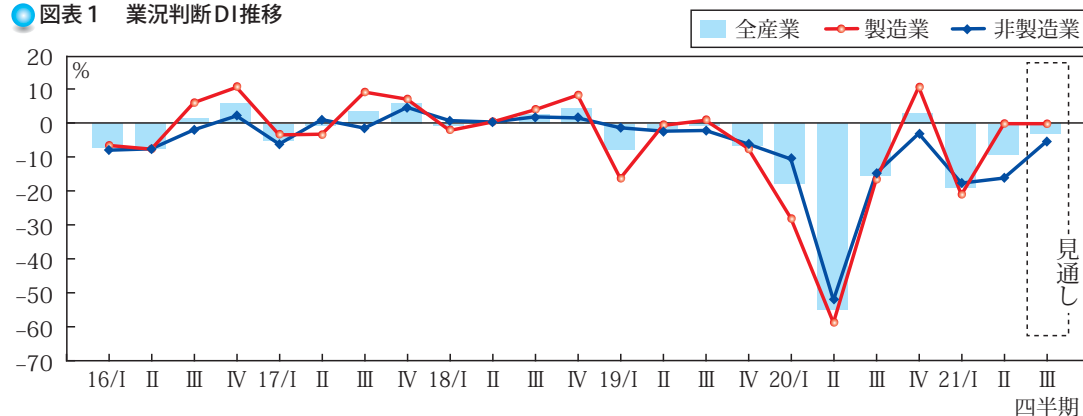
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞により、2期連続のマイナスとなる～

●図表1 業況判断DI推移



	21/I 実績	21/II(4-6月)		21/III 見通し
		前回予測	実績	
好転	10.4	(13.6)	13.2	12.0
変わらず	60.2	(66.1)	64.5	73.0
悪化	29.4	(20.3)	22.3	15.0
全産業DI	△19.0	(△6.7)	△9.1	△3.0

製造業DI	△20.9	(△0.5)	0.0	0.0
食料品	△44.0	(8.0)	10.4	0.0
繊維	△53.8	(△15.4)	0.0	△7.7
木材木製品	△20.0	(10.0)	△20.0	△10.0
窯業土石	20.0	(△30.0)	△28.6	0.0
電気機器	△5.5	(△11.1)	△14.3	7.2
輸送機器	△30.0	(10.0)	△30.0	20.0
金属製品	0.0	(8.1)	12.2	△14.6
一般機械	△18.8	(0.0)	15.8	10.6
その他	△25.5	(△6.4)	6.8	△1.7
非製造業DI	△17.5	(△11.4)	△16.0	△5.2
卸売業	△27.7	(△18.5)	△5.0	△8.4
小売業	△21.9	(△14.7)	△16.2	0.0
建設業	△2.6	(△15.8)	△13.4	△8.6
サービス	△21.8	(△2.2)	△23.9	△2.8

【21年4～6月期】

○全産業

新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞などにより、全体のDIは△9.1とマイナスが続いた。8業種で「悪化」超。「悪化」超幅は前回予測の△6.7を下回った。

○製造業

一般機械や食料品が「好転」超に転じた。しかし、半導体不足による完成車メーカーの減産を受けた輸送機器で引き続き大幅な「悪化」超となったことなどから、製造業全体としては横ばいでの推移となった。

○非製造業

外出自粛の影響が大きい旅館・ホテルなどを中心にサービス業で大幅な「悪化」超が続いた。全4業種で「悪化」超となり、非製造業全体のDIは△16.0と、10期連続の「悪化」超。

【21年7～9月期（見通し）】

○全産業

DIは△3.0と「悪化」超が続く見通し。

○製造業

横ばいでの推移となる見通し。

○非製造業

「悪化」超幅は縮小するものの、引き続き「悪化」超となる見通し。

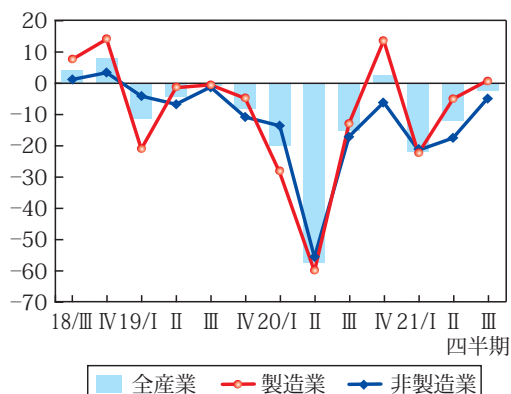
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～2期連続の「減少」超～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
増 加	12.8	(17.3)	14.2	14.4
横ばい	52.5	(57.9)	59.5	68.8
減 少	34.7	(24.8)	26.3	16.8
全産業DI	△21.9	(△7.5)	△12.1	△2.4
製造業DI	△22.4	(△1.0)	△5.0	0.9
食料品	△44.0	(28.0)	10.7	3.5
繊維	△61.5	(△15.4)	△7.7	△7.7
木材木製品	△30.0	(10.0)	△10.0	0.0
窯業土石	20.0	(△30.0)	△28.6	0.0
電気機器	△5.9	(△11.7)	△21.5	7.2
輸送機器	△26.7	(10.0)	△30.0	16.6
金属製品	△2.8	(0.0)	14.6	△9.7
一般機械	△25.0	(△6.2)	10.5	10.5
その他	△25.0	(△10.4)	△10.2	△3.3
非製造業DI	△21.4	(△12.6)	△17.5	△4.8
卸売業	△35.2	(△13.0)	△6.8	△5.0
小売業	△19.5	(△29.3)	△28.5	2.4
建設業	△9.3	(△20.0)	△15.9	△11.0
サービス	△24.0	(1.1)	△20.2	△2.7

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(21/Ⅲは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

半導体不足による完成車メーカーの減産などにより、輸送機器では大幅な「減少」超が続いた。

○非製造業

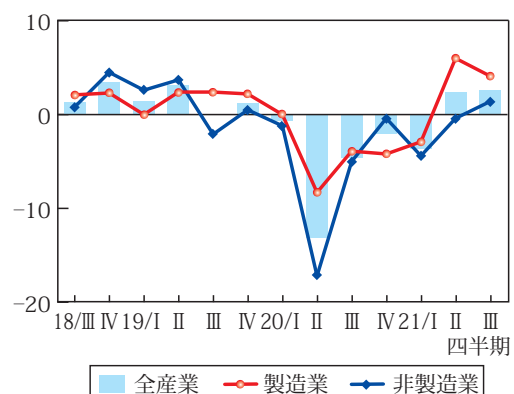
外出自粛の影響を大きく受けた小売業や、旅館・ホテルなどを中心としたサービス業で大幅な「減少」超となった。

(2)製商品(販売)価格

～「横ばい」が約9割を占める～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
上 昇	5.1	(4.6)	8.2	6.4
横ばい	86.1	(86.8)	86.0	89.8
低 下	8.8	(8.6)	5.8	3.8
全産業DI	△3.7	(△4.0)	2.4	2.6
製造業DI	△2.9	(△4.3)	6.0	4.1
食料品	0.0	(4.0)	14.3	10.7
繊維	△15.4	(△23.1)	△25.0	△16.7
木材木製品	0.0	(0.0)	40.0	10.0
窯業土石	0.0	(0.0)	0.0	0.0
電気機器	△5.9	(△5.9)	7.1	7.1
輸送機器	△9.7	(△9.7)	3.3	3.4
金属製品	11.1	(0.0)	9.8	14.6
一般機械	△6.3	(△6.3)	5.3	△5.3
その他	△6.4	(△4.3)	1.7	0.0
非製造業DI	△4.4	(△3.6)	△0.4	1.4
卸売業	0.0	(5.7)	17.3	13.8
小売業	2.4	(△7.3)	4.7	4.8
建設業	△5.7	(△8.5)	△6.4	△5.1
サービス	△9.5	(△3.5)	△7.9	△1.9

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(21/Ⅲは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

世界的に木材の需給が逼迫していることから、住宅用パネルや家具などの木材木製品で大幅な「上昇」超となった。

○非製造業

鋼材や木材などの建築資材の仕入価格高騰を受けて、卸売業で大幅な「上昇」超となった。

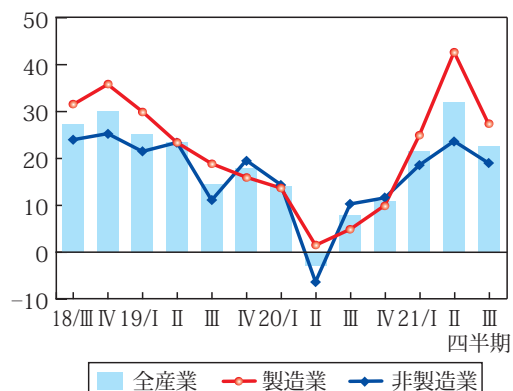
(3)原材料（仕入）価格

～4期連続の「上昇」超～

	21/I 実績	21/II(4-6月) 前回予測	21/II(4-6月) 実績	21/III 見通し
上昇	23.9	(20.8)	34.1	24.8
横ばい	73.7	(75.9)	63.9	73.0
低下	2.4	(3.3)	2.0	2.2
全産業DI	21.5	(17.5)	32.1	22.6

製造業DI	25.0	(20.5)	42.7	27.3
食料品	4.0	(8.0)	31.0	10.3
繊維	23.1	(15.4)	16.7	0.0
木材木製品	30.0	(30.0)	50.0	40.0
窯業土石	0.0	(0.0)	14.3	0.0
電気機器	47.1	(47.1)	71.4	42.9
輸送機器	22.6	(19.4)	50.0	36.7
金属製品	50.0	(36.1)	65.9	48.8
一般機械	31.3	(37.5)	57.9	36.8
その他	13.0	(4.3)	24.1	15.5
非製造業DI	18.6	(15.0)	23.7	19.0
卸売業	28.3	(18.8)	41.4	41.4
小売業	19.5	(19.5)	16.7	19.0
建設業	20.8	(19.4)	23.4	17.3
サービス	10.4	(6.9)	16.3	7.2

● 図表2-3 原材料(仕入)価格DI推移(21/IIIは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

半導体不足や、金属・木材などの高騰により、電気機器や金属製品、木材木製品などで大幅な「上昇」超となった。

○非製造業

建築資材などの高騰を受けた卸売業で大幅な「上昇」超となり、建設業などでも「上昇」超が続いた。

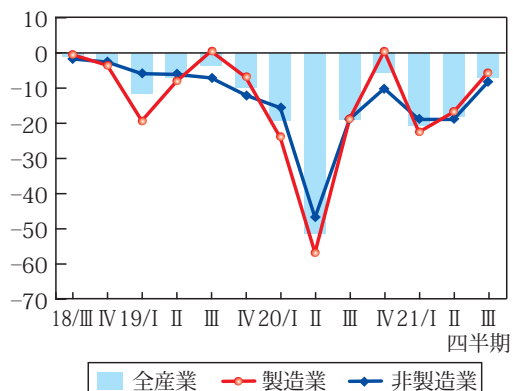
(4)採算

～大幅な「悪化」超～

	21/I 実績	21/II(4-6月) 前回予測	21/II(4-6月) 実績	21/III 見通し
好転	8.2	(10.1)	8.2	9.4
変わらず	63.1	(67.9)	65.6	74.2
悪化	28.7	(22.0)	26.2	16.4
全産業DI	△20.5	(△11.9)	△18.0	△7.0

製造業DI	△22.5	(△10.7)	△16.8	△5.5
食料品	△40.0	(4.0)	△3.5	△3.4
繊維	△53.8	(△38.5)	△16.6	△16.6
木材木製品	△40.0	(0.0)	△30.0	△20.0
窯業土石	20.0	(△40.0)	△28.6	0.0
電気機器	△17.6	(△5.8)	△35.7	0.0
輸送機器	△26.7	(△10.0)	△36.6	10.0
金属製品	△2.8	(△2.7)	△7.5	△17.5
一般機械	△12.5	(△12.5)	△15.7	△5.3
その他	△27.1	(△14.6)	△11.8	△3.4
非製造業DI	△18.9	(△12.8)	△18.9	△8.2
卸売業	△26.4	(△9.5)	△15.2	△10.2
小売業	△14.7	(△14.6)	△14.3	△7.1
建設業	△6.8	(△20.2)	△18.3	△12.2
サービス	△26.4	(△7.7)	△23.2	△4.6

● 図表2-4 採算DI推移(21/IIIは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

窯業土石が「悪化」超に転じ、輸送機器や電気機器を中心に全9業種で「悪化」超となった。

○非製造業

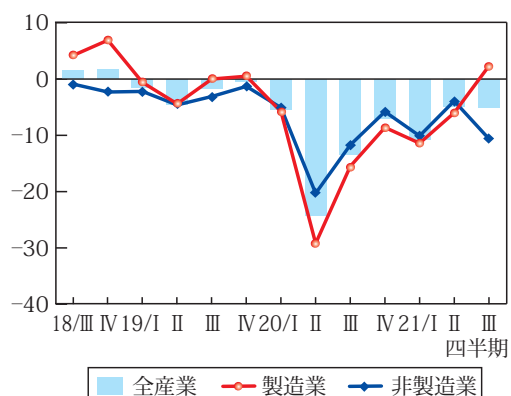
旅館・ホテルの半数以上が「悪化」と回答するなど、サービス業で「悪化」超が目立った。

(5)設備投資

～「減少」超が続く～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
増 加	10.2	(8.2)	11.5	10.9
横ばい	68.9	(73.6)	72.2	73.2
減 少	20.9	(18.2)	16.3	15.9
全産業DI	△10.7	(△10.0)	△4.8	△5.0
製造業DI	△11.4	(△11.4)	△6.0	2.3
食料品	△16.0	(△12.0)	0.0	13.8
繊維	△30.8	(△15.4)	△50.0	△25.0
木材木製品	△20.0	(0.0)	△12.5	0.0
窯業土石	20.0	(△10.0)	0.0	△14.3
電気機器	△6.6	(△6.6)	△7.2	21.4
輸送機器	△20.0	(△10.0)	△3.4	0.0
金属製品	△2.8	(2.8)	△10.0	△15.0
一般機械	△6.3	(△18.8)	5.6	△5.6
その他	△12.8	(△23.4)	△1.7	15.5
非製造業DI	△10.1	(△8.8)	△3.9	△10.6
卸売業	△21.6	(△11.8)	△17.5	△15.8
小売業	△13.2	(△13.2)	7.3	△4.9
建設業	0.0	(△8.4)	△7.5	△13.7
サービス	△10.2	(△5.6)	1.9	△7.7

図表2-5 設備投資DI推移(21/Ⅲは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

製造業全体では引き続き「減少」超。製造業全体の設備投資目的は、生産能力向上、合理化・省力化が中心であった。

○非製造業

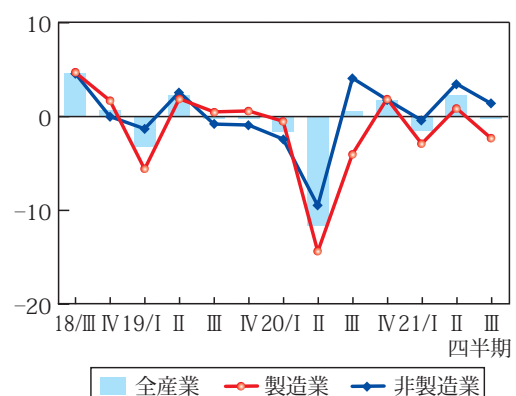
2業種で「減少」超となり、全体でも「減少」超。非製造業全体の設備投資目的では老朽化対応が目立った。

(6)資金繰り

～ほぼ横ばいで推移～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
余 裕	10.2	(9.3)	12.4	10.8
普 通	78.1	(77.7)	77.5	78.2
窮 屈	11.7	(13.0)	10.1	11.0
全産業DI	△1.5	(△3.7)	2.3	△0.2
製造業DI	△2.9	(△4.4)	0.9	△2.3
食料品	△13.1	(0.0)	13.8	10.3
繊維	△53.8	(△53.8)	△46.2	△46.2
木材木製品	20.0	(0.0)	0.0	0.0
窯業土石	△20.0	(△30.0)	0.0	△14.3
電気機器	5.5	(5.5)	28.6	21.4
輸送機器	△6.9	(△17.2)	△13.3	△13.3
金属製品	△5.5	(△2.7)	△2.5	△12.5
一般機械	17.6	(17.6)	0.0	10.5
その他	8.3	(6.3)	8.5	5.1
非製造業DI	△0.4	(△3.1)	3.5	1.4
卸売業	0.0	(3.7)	1.7	5.2
小売業	12.2	(7.3)	11.7	6.9
建設業	5.5	(△1.3)	12.8	7.7
サービス	△11.0	(△13.2)	△5.6	△7.4

図表2-6 資金繰りDI推移(21/Ⅲは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

食料品が「余裕」超に転じ、電気機器で「余裕」超幅が拡大した。製造業全体では小幅ながら「余裕」超に転じた。

○非製造業

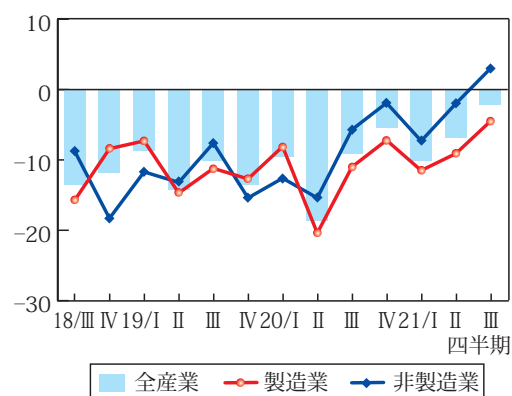
サービス業が引き続き「窮屈」超も、他の3業種が「余裕」超となり、非製造業全体では「余裕」超に転じた。

(7)在庫水準

～「過剰」超が続く～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
不足	6.6	(5.9)	7.2	7.5
適正	76.6	(84.2)	78.7	82.8
過剰	16.8	(9.9)	14.1	9.7
全産業DI	△10.2	(△4.0)	△6.9	△2.2
製造業DI	△11.5	(△4.3)	△9.1	△4.5
食料品	△32.0	(△4.0)	△13.8	△3.5
繊維	△38.5	(△7.7)	15.4	0.0
木材木製品	0.0	(10.0)	10.0	50.0
窯業土石	10.0	(0.0)	△14.3	△28.6
電気機器	△16.7	(0.0)	△7.2	△21.4
輸送機器	△6.4	(△3.2)	△34.5	△17.3
金属製品	2.7	(△2.7)	△2.5	△2.5
一般機械	△5.9	(0.0)	0.0	0.0
その他	△14.6	(△12.5)	△10.2	△5.1
非製造業DI	△7.3	(△3.2)	△2.0	3.0
卸売業	△16.6	(△9.2)	△1.7	1.7
小売業	4.8	(4.9)	△2.4	4.7
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

図表2-7 在庫水準DI推移(21/Ⅲは見通し)



注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【21年4～6月期】

○製造業

輸送機器や食料品など6業種で「過剰」超となり、製造業全体でも「過剰」超が続いた。

○非製造業

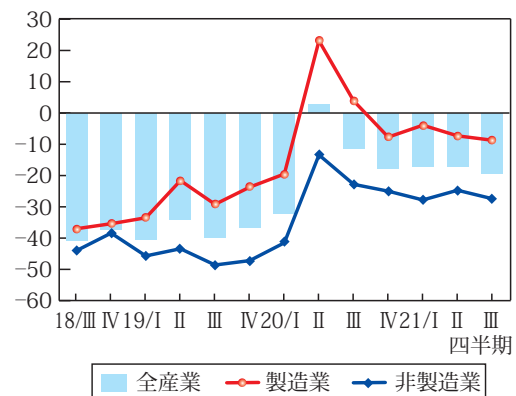
卸売業の「過剰」超幅が縮小したものの、小売業が「過剰」超に転じ、非製造業全体では「過剰」超が続いた。

(8)人 員

～4期連続の「不足」超～

	21/Ⅰ 実績	21/Ⅱ(4-6月) 前回予測	21/Ⅱ(4-6月) 実績	21/Ⅲ 見通し
過剰	13.1	(8.6)	11.4	8.1
適正	56.7	(65.3)	60.1	64.5
不足	30.2	(26.1)	28.5	27.4
全産業DI	△17.1	(△17.5)	△17.1	△19.3
製造業DI	△3.9	(△7.7)	△7.3	△8.7
食料品	12.0	(△12.0)	△10.4	△10.4
繊維	23.1	(0.0)	0.0	△7.7
木材木製品	△10.0	(△10.0)	0.0	△11.1
窯業土石	△40.0	(△30.0)	△28.6	△28.6
電気機器	△5.6	(0.0)	0.0	14.3
輸送機器	13.3	(△3.3)	10.0	△6.6
金属製品	△5.4	(△13.5)	△2.5	△2.5
一般機械	△35.3	(△23.5)	△47.3	△36.8
その他	△8.3	(2.1)	△6.7	△6.7
非製造業DI	△27.8	(△25.5)	△24.7	△27.4
卸売業	△11.1	(△14.8)	△15.8	△17.5
小売業	△31.7	(△26.9)	△9.3	△9.3
建設業	△56.2	(△47.9)	△45.6	△45.6
サービス	△13.2	(△13.2)	△20.1	△26.6

図表2-8 人員DI推移(21/Ⅲは見通し)



【21年4～6月期】

○製造業

輸送機器は「過剰」超となったが、食料品が「不足」超に転じた他、一般機械も大幅な「不足」超となった。

○非製造業

建設業では5割近くが「不足」と回答し、人手不足感が継続した。非製造業全体でも大幅な「不足」超が続く。

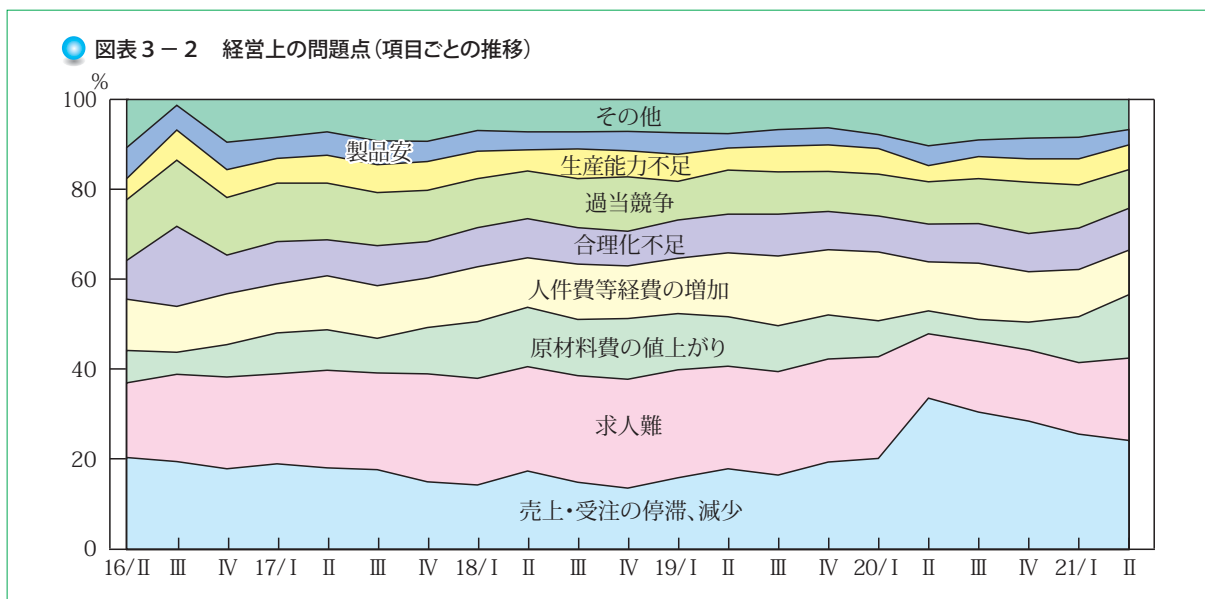
3. 経営上の問題点

～「売上・受注の停滞、減少」が引き続き最多となった～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：％)

項目	21年 1～3月期	21年 4～6月期	前期比増減	回答の多い業種
売上・受注の停滞、減少	59.1	53.5	△5.6	窯業土石、卸売業、木材木製品
求人難	36.9	40.5	3.6	建設業、輸送機器、食料品
原材料費の値上がり	23.6	31.1	7.5	木材木製品、金属製品、一般機械
人件費等経費の増加	24.2	22.0	△2.2	食料品、一般機械、電気機器
合理化不足	21.3	20.6	△0.7	その他製造業、輸送機器、食料品
過当競争	22.2	19.0	△3.2	建設業、小売業、窯業土石
生産能力不足	13.3	12.2	△1.1	電気機器、金属製品、建設業



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、1位「売上・受注の停滞、減少」、2位「求人難」、3位「原材料費の値上がり」の順となった。引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を大きく上回った。

回答の多い業種は、「売上・受注の停滞、減少」では窯業土石、卸売業、木材木製品など、「求人難」では建設業、輸送機器、食料品など、「原材料費の値上がり」では木材木製品、金属製品、一般機械などとなった。